

World's Window

さあ、窓を開けて世界をのぞいてみようよ



Vol.38

パラオ共和国



世界の国々や地域を紹介するコーナー「ワールズ・ウィンドウ」!

案内役は、国際交流員として働いているアダム・ラビエールさんとジェニファー・ステイントンさんです。

Hello! アダムです。わたしは以前グアムに住んでいたときに、パラオに遊びに行ったことがあります。パラオはグアムから飛行機でたった2時間で行ける国で、休暇を過ごしたり、スキューバダイビングをするのに最高の場所です。今回はわたしのお気に入りの国パラオを紹介したいと思います。



パラオ

は南太平洋の紺碧の海に囲まれた小さく細長い熱帯の島です。東京からは飛行機で約4時間ほどで到着します。水上のパラオは生い茂るジャングル、石灰岩、どこまでも続く草原、環礁に囲まれた浅い海、滝、そして洞窟や白砂のビーチを有する楽園です。パラオには200も

の島々がありますが、人が住んでいる島はたったの7つで総人口は約2万人です。人が住んでいない、険しく孤立した島には、何千年の間手つかずの自然が残っています。水中のパラオも世界中ほかに類を見ないほど素晴らしく格別です。大きな海流は、海岸にのみ集中して流れ込み、ここでなければ見られないアクアカラーと生命、パラオならではの独創性を生み出します。また、見た者でなければ分からない、信じられないほど素晴らしいスキューバダイビングの天国なのです。

2種類

パラオの島には2種類あります。ひとつは火山島で土に覆われており、もう1種類の島とは異なった植物、動物、農業があり、そして親しみのある気さくなパラオの人々が住んでいます。もう1種類の島は比較的小さく、こちらは岩の島として知られ、きのこの形をしていて美しい白砂のビーチに囲まれています。これらの島はポストカードや旅行の広告などによく使われている有名なパラオの島です。この岩の島の基となっている石灰岩は、地球の海拔が今より75~100メートルほど高かった頃の巨大な珊瑚礁です。徐々に削られていった岩の島は土もなく、そのためこの島には人が住むことがなかったのです。土がないこの島では、朽ちた植物を栄養分として植物が育ちます。その自然の美しさ、熱帯の気候、優しくフレンドリーな地元パラオの

人々が、この島々を世界最後の手つかずの土地として旅人を引きつける魅力的な場所にしたのです。

家母長制

ずっと昔、パラオの人たちは家母長制の社会の中に生きていました。従って、女性は身分が高く、村を統制し、それぞれの村の資産や財産を受け継ぎ管理するのもまた女性でした。1686年、スペインがパラオを植民地として要求したものの、スペインは200年以上の間この島を支配しようとしたり植民地化を試みることをしませんでした。最初に西洋人がこの地に足を踏み入れたのは1783年のことで、イギリス人ヘンリー・ウィルソン船長率いるアンテロープ号が沖で座礁したのです。ウィルソンと乗組員は、パラオの大酋長アイビドールに助けられ、アイビドールは船の修理も手助けしてくれました。アイビドール大酋長は息子のリブー王子にも手伝わせ、その後、西洋の世界の勉強のためと、乗組員とともにリブー王子をイギリスへ行かせたのです。しかし、リブーはイギリス到着後まもなく、天然痘にかかり亡くなってしまいます。



1800年代後半

、スペイン人がパラオに再びやってきてパラオの統治をし始めました。米西戦争に破れたスペインがパラオをドイツに売却する前は、宣教師たちが布教をはじめ、地元住民にアルファベットを教えていました。日本がパラオを軍事占有したのは1914年でした。ヴェルサイユ条約が締結される1919年まで日本にはパラオを統治する権限が与えられました。第二次世界大戦後は、アメリカの信託統治領となりました。その後、住民はマイクロネシア連邦からの独立を求め、1980年、憲法草案の住民投票が可決。1981年、パラオ国自治政府が発足となったのです。